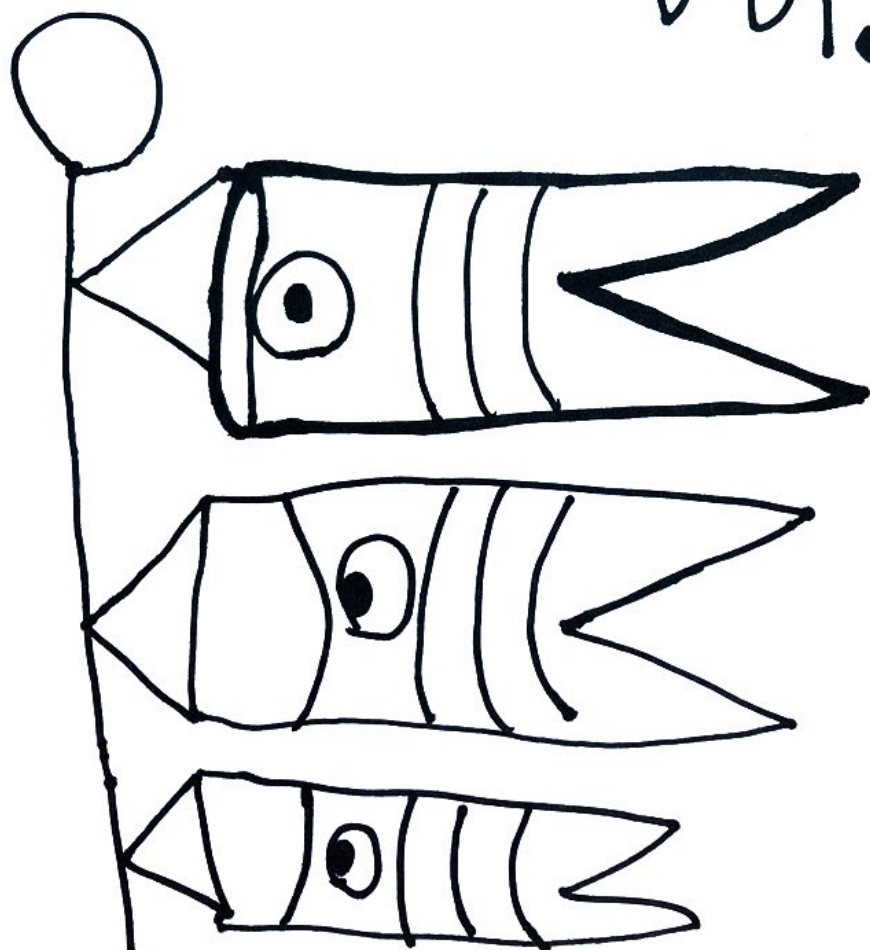


よ・ち美月几通信5月号

Vol.154



よ・ち美月几通信

5月

今月号のとよたち美肌通信の

表紙は、大きな鯉のぼり3匹が
元気に泳いでいます!

かざぐるまも回って風が気持ちよさそう!

今回の表紙は兄弟が描いてくださいました。

マンガをかく事や、学校が好きなお兄ちゃん
給食が大好きな弟くん!

そして2人ともスイミングが得意なんだ

そうびす ☺

素敵な絵をありがとう
ごさいます。

院長はじめスタッフ一同

バリエリ感謝いたします。



「気づく」ことは人生にとって としき大切な要諦の一つだと思う。只気づくだけでなく、「しびれること」。人間は何にしびれるかである。何にしびれるかによつて、その人は決まる。人間は自分にとっての本物にしびれなければならぬ。一つは出会い。出会いは人間とのそれであるか、何も人間に限つたことではない。体験によつて運命が開かれる場合もある。

「力量は運命という岩にぶつかつてその波頭を高く上げる」と、伊リアの思想家マキャベリは言う。確かにそうだと思う。各人には気や波動があつて、ある対象と正対して感動し魂を揺さぶられ、そこに運命を開く要訣を見出すものと言える。

「気づき」や「しびれる」は人間内面の成長の原動力でもある。

この伝で言えば「閃き」も「気づき」や「しび
「れる」に通ずるものであり、人間だけに
与えられた特殊能力なのかも知れない。
今ある社会の産物は全て人間の閃きから
生まれてきたと言っても過言ではない。
ではどうすれば「閃く」のか。松下幸之助
は閃きの基本にあるのは熱意だと断言
している。熱意が基本にあると絶えず寝
ている間ですえも考える様になる。僕は
寝る間も惜んで仕事をしていた。そうすると
不思議なもので新しいことが浮んでくるもの
だ。浮かばないとすれば、それは熱意が
足りないことに他ならずなり、と述べている。

私も以上の様な条件を満たすべく自分を
研鑽していきたいと考えるのである。 巖川, 持